

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 火・3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生体の機能 (薬物応答) Basic Human Physiology (Drug response)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者)/E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員 (科目責任者): 植田弘師 / E メールアドレス: ueda@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 薬学部4階分子薬理学分野 / TEL: (直通) 095-819-2421 / オフィスアワー: 水曜日 12:00~12:50 (事前にメールで連絡のこと)、メールでも対応			
担当教員(オムニバス科目等)	植田弘師, 中村純三、井上 誠,		
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標 授業のねらい: 薬と生体との相互作用の結果起こる現象を理解すること、並びに、薬の歴史的背景を理解することを目的とする。特に、薬物のもつ主作用と副作用を理解することで、薬に対する理解力を深めることを目的としている。 授業方法: スライド、プリント等を用い、視覚的に印象付ける講義とする。 授業到達目標: 薬物の様々な作用を理解する科目であり、くすりに対する基礎的な知識を習得出来るようになる。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 種々の疾患に対する治療薬の多くは用量・環境に応じて主作用や副作用を示す。そこで、薬物による生体反応を現在注目されている薬物あるいは汎用されている薬物を題材として理解を深めることを目的としている。 薬物応答を受容体情報伝達学、分子生物学、生理・解剖学、病態生化学および毒性学の知識を交えながら解説する。さらに、薬の開発に至った経緯やセレンディピティについても講義する。 第1講: 薬物治療と病態に関する講義。 第1回 担当 植田、井上 第2回 担当 植田、井上 第3回 担当 植田、井上 第4回 担当 植田、井上 第5回 担当 植田、井上 第2講: 薬物の持つ主作用と副作用に関する講義。 第6回 担当 植田、井上 第7回 担当 植田、井上 第8回 担当 植田、井上 第9回 担当 植田、井上 第10回 担当 植田、井上 第3講: 薬の歴史的背景を交え、その薬物作用に関する講義。 第11回 担当 中村 第12回 担当 中村 第13回 担当 中村 第14回 担当 中村 第15回 担当 中村			
キーワード	薬物、主作用、副作用、歴史、病態		
教科書・教材・参考書	参考文献は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	上記、第1講での小テスト(34%)、第2講での小テスト(33%)、第3講での小テスト(33%)の合計で評価する。		
受講要件(履修条件)	やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、担当教員と相談すること。		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	薬物の様々な作用を理解する科目であり、くすりに対する基礎的な知識を習得させる。		
備考(準備学習等)			